

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 2795000260 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 正福会 | | |
| 事業所名 | グループホームくつろぎ・友井荘 | | |
| サービス種類 | 認知症対応型共同生活介護 | | |
| 所在地 | 大阪府東大阪市友井四丁目8番5号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和6年2月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和6年4月4日 |

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosvoCd=2795000260-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪 | | |
| 所在地 | 大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階) | | |
| 訪問調査日 | 令和6年3月13日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安心で安全に自分らしい生活を日々過ごして頂けるように取り組んでいる。季節を感じて頂けるように、レクレーションなどの工夫、季節の花が楽しめるように中庭作りの取り組みを行っています。毎月、施設内行事や地域行事に参加されている様子を家族の方々に写真入りのお便りにて報告させて頂き、安心して頂けるように努めています。入居者の一人ひとりの健康管理にも常に留意し、訪問医師との連携を図り、安心できる生活を過ごして頂けるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは最寄り駅から近く、迷わず着ける場所にあります。併設している特別養護老人ホームと共用のエントランスには利用者のスナップ写真や手作り作品が飾られています。掲示された理念も周囲に違和感なく溶け込んでいます。ふたつの施設のリビングからよく見える中庭で、外気浴や草取りをしたり、花を楽しむことができます。共用のスペースでは、職員からの死角をなくすため、小さなカーブミラーをひとつ、鴨居の所につけています。訪問医も利用者顔見知りの医師が多く、口腔ケアでは、「使っている歯ブラシがよく合っているからこのままで」など、きれいに磨けている時にも細やかなアドバイスがあり、家族にも伝え共有しています。また、高齢者の睡眠について学び、話し合っ、昼夜逆転気味の利用者にも安易に薬に頼らないケアを行っています。管理者は日頃から利用者ひとり一人について、職員と話し合う機会を多く持ち、また信頼厚い事務方の存在も、介護現場での利用者との関わりをバックアップしています。職員が「自分の親を入れたい施設」と胸を張るホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 己 | 自部外 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 共有・実践するように努めている。また、グループホーム独自の理念も掲げ、実践に努めている。法人理念は、定例会議での説明や研修の開催案内などに記載し、管理者・職員が事業所理念を意識づけるように玄関に掲示している。 | 理念はエントランスやホームの入り口に掲示しています。法人理念をもとに「生活を中心に、ゆったりと安心安全の介護」を目指しています。「利用者の言っていることを傾聴し質の高い介護・家族にも寄り添う介護を」と管理者、職員共に実践しています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の夏祭りへの参加、近隣の散歩や施設内特養の入居者の方との交流などを通じて、地域と交流を図るようにしている。 | 地域役員など地域関係者からの情報も多く、夏祭りのだんじりもホームに訪れ、利用者の楽しみのひとつになっています。今後、自治会と一緒にイベントなどを企画し、地域との繋がりを深めていきたいと考えています。 | 運営推進会議の委員でもある地域代表や地域と関わりのある職員を軸に、更にしっかり地域に根付いたホームとなることを期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症の方への理解や支援の方法などについての情報発信は、地域運営推進会議等で必要に少しでも助言となるように話をさせて頂いている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 奇数月の下旬頃に運営推進会議を行い、サービス提供の状況、行事等の報告とヒヤリハット、事故報告なども開示報告している。また、サービス向上に活かすことができるよう率直な意見をもらうようにしている。 | 自治会女性部長・地域包括支援センター職員・家族代表・併設特養の職員も参加し、対面で開催しています。ホーム内の日々の様子や出来事を報告し、意見を交換しています。災害時の訓練も議題に上がり、地域との連携も視野に入れ、相互に助け合えるように検討していきます。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 介護保険での疑問や解らないことが生じた場合、東大阪市福祉部指導監査室法人・高齢者施設課へ問い合わせを行い相談や指導を受け協力関係を築くことができるよう取り組んでいる。提出物などは持参し担当者との顔の見える関係性をもつようにしている。 | 東大阪市施設会に参加し行政担当者が出席している際は、意見を聞いています。また、疑問や不明なことは行政に尋ね、担当者とは日頃から顔を会わす機会を多くすることで連携を深めることに努めています。 | |

| 己 自部 外 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | | |
|--------|-----|---|---|---|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止に関する指針の周知徹底を図れるように外部研修に参加している。また、研修内容を施設で勉強会を実施し現状の振り返りを常時行い職員の共有認識を図っている。玄関の出入口扉開錠については日中の可能な時間帯につき開錠している。 | 身体拘束会議は「虐待防止」と共に3カ月に1度開催しています。会議内容は紙ベースで全員に周知しています。足下の不安定な時には「危ない」ではなく「どうしましたか」と声を掛けています。見守りのためのセンサーを使用する事はありますが、拘束はありません。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止は、外部研修や内部研修で理解を深めている。虐待とみなされる行為について具体的に学び防止に努めている。特にスピーチロック廃止に向けての取り組みを行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者は日常生活自立支援事業や成年後見人制度について理解し、入居者に具体的に必要が生じた際は、家族や関係者との話し合いをし取り組めるように心がけている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結の前に重要事項説明書の内容について説明を行う時間を設けその後、契約書内容の説明を行い、契約締結をして頂くようにしている。運営規定やその他規程変更の必要がある場合には家族や入居者に説明を行い不安や疑問が生じないように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者や家族が意見、要望を申し出しやすいように普段から管理者や職員から話しかけるようにしている。また、意見箱も設置し定期的に確認している。意見があった場合は、定例の会議にて報告し、運営に反映できるように取り組んでいる。 | 家族も近隣にいる人が多いので面会時に声を掛けたり、電話をしたときに尋ねるようにしています。衣類などの物品購入を伝えるときは、家族が見てわかるように写真を添えてお願いしています。草花の鉢を定期的に持参する家族もあり、中庭においてみんなで楽しんでいます。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の定例会議で管理者・介護職員で意見交換を行っている。また、職員には日頃から業務を通じて問いかけたり、聞き出したりしコミュニケーションを図るように心がけている。 | 長年勤務する職員が多く、「和」を大事にし、新人にも伝え、和気あいあいとした雰囲気があります。小さな怪我も詳細に観察し、確実な報連相で引き継ぎを行っています。職員間でねぎらいの言葉をかけ、会議でも職員の意見を聞く時間を設けています。 | |

| 己 自 部 外 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|--|--|------|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の努力や実績、勤務態度や状況の把握などに努め、各職員が向上心ややりがいを持って働くことができるように環境整備や条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量や実力を把握し、法人内研修や法人外研修など経験の応じた研修機会の提供に努めている。資格未取得の職員に対しては初任者研修の受講料補助も行っている。また、スキルアップのための介護福祉士などの資格取得にも取り組むように職員に働きかけを実施している。 | | |
| 14 | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 認知症グループホーム協会の定例会へは管理者が参加するようにしている。東大阪市内の事業者との定期的な交流は管理者は行っているが、職員が交流する機会は調整中。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する段階で、入居者自身が困っていること、不安に思っていることはその都度確認・傾聴し職員間で情報を共有して安心・安全な生活を送って頂けるように努めている。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービスを導入する段階で、家族が困っていること・不安に思っていること・要望等を確認・傾聴して、職員間で情報を共有している。意見箱を設置し、良好な関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス導入段階で要望や必要とされているサービスについて検討し、個々に応じてマッサージや訪問診察、訪問歯科、緊急時の受診など他のサービス利用を含めた対応に努めている。 | | |

| 己 自部 外 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者の意見・要望などを傾聴し不安や困っていること等職員で検討・話し合い、解決策を実行することで入居者との信頼関係を築き、暮らしを共にする同士の関係を築けるように努めている。 | | |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に相談ごと・心配なことがあれば、いつでも話して頂けるような環境作りに努め、入居者と家族の絆を大切にしながら、共に入居者を支えていくことが出来る信頼関係を築くことが出来るように努めている。 | | |
| 20 | (8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナウイルス感染症の影響で馴染みの人が会いに来られることは控えられている。施設周辺の馴染みの場所には関係が途切れないように時間を選んで支援はできている。 | 高齢になり友人の訪問も少なくなり、人との関係性が減少しています。近くの神社に散歩に出かけた時には、思い出を語り始める利用者もいます。家族からの電話には時間を合わせ、ゆっくり話ができるようにしています。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の関係性を把握し、アクシデントやそれに準じる行為が起きないように、共同生活の場における席の配置や職員の配置に配慮しながら、一人ひとり孤立せず入居者同士が会話ができるように支えあえるような支援に努めている。 | | |
| 22 | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用(契約)が終了した方の情報はいつでも状況に応じて開示できるように保管し、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー・相談や支援ができるように努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | (9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関わりの中で会話をしながら表情や言葉などから本人の思いや希望の把握に努めている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。 | 利用者に寄り添い、話をしっかり聞くように心掛けています。漫才のような会話になり、笑い合うこともしばしばあります。「認知症高齢者のプライバシー保護」などについてユニット会議で取り上げ、認知症理解を深めるように努めています。 | |

| 己 自部 外 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------|---|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に本人や家族に生活状況を聞き、入居の際には馴染みのある家具や持ち物を持ち込んで頂き、安心できる環境づくりに努めている。 | | |
| 25 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人の今の現状を把握し、心身の状態に応じたその人らしい生活が送れるように努めている。また、一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援に努めている。 | | |
| 26 | (10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人や家族の意向・思いを踏まえ、現状のニーズに応じたケアを計画作成担当者と職員で話し合っって介護計画を作成している。状況によっては協力主治医にアドバイスを受けるようにしている。 | 職員もカンファレンスやモニタリングに参加し、現場の情報をもとにひとり一人の考えを伝え、意見交換を行って介護計画に繋げています。作成した介護計画はユニット会議で職員に周知しています。状態が変わりがなければ6ヵ月に1度の更新をしています。 | |
| 27 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や状態の変化、気づきを朝・夕の申し送りやケース記録に残している。パソコン上の申し送り機能も活用し、さらに職員間の情報共有の一環として申し送りノートを活用し実践や介護計画に反映させている。 | | |
| 28 | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の希望に応じた対応(散歩・家族との外出など)個々の状態に適した対応(食事形態・排泄用品など)を柔軟に行っている。 | | |
| 29 | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 入居者の楽しみになっている、地域の夏祭りはコロナ禍であっても感染症対策を行いつつ参加している。 | | |

| 己 自部 外 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------|--|---|--|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 30 | (11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医の確認を行っている。多くの入居者はホームの協力医を主治医としており、月2回の訪問診療や24時間の医療体制を確保している。緊急性がある場合は家族にすぐに電話連絡を行っている。職員間では訪問診察記録で情報共有を図っている。 | 協力医療機関をかかりつけ医とし、内科医・精神科医が月に2回定期的に訪問、健康管理を行っています。入所前からの医療機関を継続して現在も通院している利用者もいます。緊急時などにはオンコールで主治医に連絡、24時間体制で対応できることで、利用者、家族、職員の安心につながっています。又、歯科の訪問診療も毎週あります。 | |
| 31 | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常的に些細なことでも頻繁に情報交換を行い、普段と違う何気ない様子を捉え、常時電話連絡を中心に相談・助言を受けている。情報共有を図ることで、早期発見・早期治療に繋げられる連携体制にある。 | | |
| 32 | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはかかりつけ医より情報提供を行い、ホームから日常生活についての情報を伝えている。また、退院時は本人や家族の意向を聞きながら、早期退院に向けて病院関係者(医療連携室など)と情報交換し安心できる生活環境に努めている。 | | |
| 33 | (12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態の低下や重度化した場合には、かかりつけ医より見解を話して頂き、医療と介護の連携での支援方針を説明し、本人や家族の希望に添えるように努めている。意向を最優先にするために、安心・安全・安楽な環境整備や精神的ケアについての研修を実施するなど職員の資質向上を図っている。 | 重度化や終末期の対応についてはホームの指針に沿い、利用者の状態をみながら主治医より説明を行って、本人・家族の意向に沿えるよう支援していきます。最後までホームで、との希望があれば看取りも行っています。職員は終末期になっても利用者や家族が安心して過ごせる様に日頃からターミナルケアの研修や勉強会を実施しています。又、最後のお別れの時は職員全員でお見送りしています。 | |
| 34 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応マニュアルを作成し、職員に周知を図っている。また、研修会の参加や施設内の勉強会を通じて職員の知識向上に努めている。 | | |

| 己 | 自部外 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難誘導訓練及び職員による消火設備や機器の説明など定期的に行うようにしている。飲料水や食料などの備蓄も行い、運営推進会議を通じて地域の方への災害時の協力依頼をお願いする体制を調整中。 | 消防署立ち合いのもと避難訓練を年に2回、12月と3月に実施しています。火災、水害、地震など災害時のマニュアルも避難経路等具体的で分かりやすく作成されています。災害時の備蓄品は1階倉庫に保管し、管理者と特養管理栄養士が消費期限などを管理しています。地域との協力体制は運営推進会議を通じ、声掛けしていません。昨年の大雨時には大丈夫かと心配し、地域の人が様子を見に来てくれました。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者の背景にある個性を理解し、一人ひとりの人格を尊重して、誇りやプライバシーを損ねないように注意している。特に言葉遣いについて馴れ馴れしい言葉と親しみのある言葉の違いを理解し普段から職員同士で声を掛け合い意識の向上に努めている。 | 利用者一人ひとりのプライバシーや尊厳を大切に、研修を実施したり、会議で話し合ったりしています。昨年10月には「介護におけるプライバシー保護について」の研修を受けた受講者がホームで伝達研修を行うなど職員全員で共有しています。「認知症とケア」の研修も実施しました。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の中で入居者自身が思いや希望を伝えたりできるように信頼関係を築き、職員間で情報を共有して、ケアの方法やレクリエーションなどについて自己決定できるように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している | 食事・排泄・余暇・就寝・起床など生活支援に関して入居者一人ひとりの体調・状態を優先している。中庭での外気浴なども取り入れ安心・安全・快適に暮らして頂き、我が家の様な安らぎと、くつろぎのある生活を送って頂けるように支援をしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 髪をとかさされる方は自身で行い、介助が必要な方は職員がお手伝いさせて頂く。衣類に関しては入居者自身で選んで頂き、介助が必要な方は、その方に似合う衣類を選び着て頂き、その人らしいおしゃれが楽しめるように努めている。 | | |

| 己 自部 外 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------|--|---|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ご当地メニューを取り入れたり、季節の行事の際は特別メニューを取り入れている。食事は併設ホームの厨房から届けられるため、入居者と職員と一緒に作ることはないがバランスの良い食事を提供し、個々の嗜好調査も行っている。実演食も行っている。 | 3食とも併設の特養の厨房で調理され運ばれてきます。利用者はテーブルを拭くなど出来ることを手伝っています。利用者の咀嚼や嚥下状態に合わせ、刻み食や一口大、ミキサー食など提供しています。季節の行事食やご当地の特別メニューはとても人気で利用者の楽しみの一つになっています。おやつを選択食もあります。職員は食事の時間帯はフェイスシールドを着用し、感染対策を継続しています。また嗜好調査を1年に1回行ったり、メニューの要望があれば給食会議で検討するなど利用者の食に対する思いを大事にしています。職員も利用者と同じ食事を食べています。 | |
| 41 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 日々の入居者の健康状態に注意しながら、食事摂取量を把握し、水分量も時間を決めて1日を通じて確保できるように支援している。また、体調不良の方が出た場合に、いつでも水分強化ができるようにスポーツドリンクの粉末を常備している。 | | |
| 42 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアをご自身でできる方はして頂き、介助が必要な方は職員が全介助・一部介助させて頂く。また、個々に合った歯ブラシ・口腔スポンジなどを使用することで口の中の汚れや臭いが生じないように毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアに努めている。 | | |
| 43 (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の排泄パターンや習慣を把握し介助の必要な方は排泄チェック表を基に定期的に時間を決めて声かけや誘導を行っている。誘導時間など変更や検討が必要な入居者には月1回の定例会議などで話し合いにて決定し、清潔で安心・安全な自立にむけた支援に努めている。 | 排泄チェックリストを記載しています。日中はトイレでの排泄を心がけ、声掛けのタイミングや一人ひとりのサイン等を把握し、さりげない誘導を心がけています。トイレは文字だけではなく絵も表記し、利用者の目線に合わせてドアに2枚表示しています。個々の排泄パターンをふまえた誘導で尿の失敗が殆ど見られなくなった利用者もおり、排泄の自立にむけた支援を行っています。 | |

| 己 | 自 | 部 | 外 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|--|-------------------|
| | | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘が原因で及ぼす影響が大きいことを理解し個々の排便パターンを把握する。便秘の際は、水分を通常より多く摂って頂き、腸の働きをよくするために腹部マッサージ・ホットパックを行っている。また、歩行可能な方には、歩行運動をして頂き個々に応じた予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | | | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 声かけを行うが入浴を拒否された場合、時間をずらしタイミングに合わせて入浴して頂いたり、日にちをずらししている。湯舟に入れない方は、足浴をしながらシャワーを浴びて頂く。週2回は入浴をして頂くが希望があれば回数を増やし個々にそった支援を行っている。 | 週に2回の入浴を基本としています。入浴日は決まっていますが、利用者の体調や希望により柔軟に対応しています。入浴回数の増加や同性介助の希望にも対応しています。個々のペースにあわせ、ゆっくりと足浴をしながら個浴を楽しんでいます。又、入浴剤を使用したり、菖蒲湯やゆず湯などの季節湯も行っています。自分専用のシャンプーや石鹸を使っている利用者もいます。 | |
| 46 | | | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者が休息・就寝されたい時は居室に戻りベッドに横になられることで、休息したり安心して気持ちよく寝られるように環境を整え支援に努めている。また、季節や気温に応じてエアコン、寝具にて体温・体感調整を行っている。 | | |
| 47 | | | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方されている薬の効能・効果、副作用について服薬情報ファイルをいつでも確認できるようにユニット内に置き、理解するように努めている。服薬時は、職員間で氏名、日時を読み上げダブルチェックで誤薬のないように支援している。症状に変化があれば訪問医師にオンコールで指示を受けることができる。 | | |
| 48 | | | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その日の体調に合わせて、季節ごとのレクリエーションなどを定期的に行い一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換などの支援に努めている。 | | |

| 己 自部 外 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------|--|---|--|--|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ感染症の拡大などがあり、外出は控えがみではあるが、感染症対策を行いながら、入居者の体調や希望を考慮しながら、近隣の散歩に行ったり地域の祭りに参加している。また、ホームの中庭や玄関先に出て外気浴をする機会をつくり、気分転換ができるように支援している。 | コロナ禍以降、外出は難しい状況にありましたが、感染症対策を行いながら暖かい日には近隣の神社に散歩に行ったり地域の祭りに参加するなど徐々に外にでる機会を持っています。今年は花見も企画しています。また中庭のベンチに座り草花を眺めながら外気浴をしたり、施設の外周を歩くなど利用者が閉塞感を感じることはない様努めています。 | まだ外出の機会が十分でない状況です。現行の感染症対策を続けながら、利用者が外出を楽しめるような支援を期待します。まずは花見を目標にされてはいかがでしょうか。 |
| 50 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を支払うという基本行為の大切さについて職員は理解している。現状ほとんどの入居者が自身でお金を管理、所持されているということとは行えていない。 | | |
| 51 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族や大切な人に入居者が自らが電話を希望されれば、電話して頂くように援助している。手紙を書かれた際には、代わりに郵送したり、家族に渡せるように支援している。 | | |
| 52 | (19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間については、清潔感が保てるように努め、入居者が快適に過ごすことができるようにしている。フロアや居室のテレビの音量にも注意し、不快感を招かないように調整している。中庭からの遮光を活かせるような家具や机の配置などにも配慮している。 | 玄関を入ると白を基調とした館内はとても明るく清潔感があります。手指消毒用のスプレーも数か所に配置し、感染症対策も万全です。フロアは広々としており中庭に面したリビング兼食堂は明るく、陰圧装置にもなる移動式の大型空気清浄機を備えています。ゆったりと座れるソファも設置し、日中の殆どをリビングで過ごす利用者にとって居心地の良い場所になっています。季節を感じる飾りは玄関のエントランスに場所を決め、利用者の写真も掲示しています。 | |
| 53 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 独りになりたい時は居室に戻られる方が多い。共用空間では気のあった入居者同士が過ごすことができるように、机の配置を状況によって変えたり、机を囲んで話しがしやすいように工夫し、支援に努めている。 | | |

| 己 | 自 | 部 | 外 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---|------|---|---|--|--|-------------------|
| | | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 54 | | (20) | | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居前から家族と相談しながら、新しい物で揃えるのではなく、本人が使い慣れた物や大切にされていた物を持ち込んで頂くようにしている。また、家具やベッドの配置・動線などをできるだけ現状と変わらないようにしている。入居者が快適かつ安心・安全に過ごして頂けるような工夫に努めている。 | エアコンは備え付け、ベッドは持ち込みかレンタルを利用しています。居室には家族と相談しながら、馴染みのタンスやテレビ、家族の写真、好みの物が個々に持ち込まれ、その人らしい、居心地のよい部屋になっています。家具等の配置は動線に配慮し安全に過ごせるように工夫しています。ドアを開けると室内が丸見えにならないように、カーテンをつけるなど工夫しています。 | |
| 55 | | | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安心して歩行訓練もできるように手すりを設置している。浴槽にも別途手すりを取り付け安全性の確保を行っている。また、居室入口に表札をつけたり、トイレの絵表示をつけて自身が認識し、自立した生活が送れるように工夫している。 | | |